

平成25年度病害虫発生予報第1号

平成25年4月3日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない(平年並)	±
	赤かび病	やや少ない (やや遅い)	全域	4月の降水量はやや少ない ムギの生育はやや遅い	—

・留意事項

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう(例:60℃、10分)。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下だと効果が劣るので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないように管理しましょう。

イネもみ枯細菌病(苗腐敗症)は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

コムギの生育は平年よりやや遅く、今後気温が平年並に推移した場合、出穂期はイワイノダイチが4~6日、農林61号、きぬあかりが2~4日、平年に比べて遅くなると予測されています。赤かび病感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。防除適期を逃さないようにしましょう。詳細は本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや少ない	全域	越年罹病葉率は平年並 4月の降水量はやや少ない	± -
ナシ	赤星病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量はやや少ない	± -
	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量が多い 4月の降水量はやや少ない	+ -
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量はやや少ない	+ -
	灰星病(花腐れ)	平年並	全域	前年の果実被害発生量は平年並 4月の降水量はやや少ない	± -
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	前年秋の発生量はやや少ない	-
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量はやや少ない	± -

・防除対策

[ナシ・黒星病]

りん片発病芽や新梢基部病斑は見つけ次第除去し、落花後にアンビルフロアブル、ジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

落葉果樹の生育は、地域や品種によりばらつきも見られますが、平年より1週間程度、昨年より10日程度早い状況です。気温の高い状況が続くと、生育がさらに進む可能性があるため、生育ステージに合わせた適期防除を心がけましょう。

ブドウ黒とう病は、春季に降水量が多いと発生量が多くなります。昨年の発生量が多かったほ場では、特に注意しましょう。

チャバネアオカメムシの果樹園への飛来数は、越冬成虫密度調査の結果から6月末まで少ないと予測します。詳細は、本日発表の「果樹カメムシ情報第1号」を参照してください。

フェロモントラップの誘殺状況からナシヒメシンクイ越冬世代成虫の発生は、平年よりやや早いと思われます。成虫はこれからモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況などを参考に、適期を逃さないように防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない	－
				4月の降水量はやや少ない	－
トマト (施設)	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並	－ ±
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	灰色かび病	少ない	全域	3月下旬の発生量は少ない 4月の日照時間は平年並	－ ±
	すすかび病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並	± ±
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並	－ ±
	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並	－ ±
	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	＋
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は平年並	± ±
	うどんこ病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い	＋
	ミカンキイロアザミウマ	やや多い	全域	3月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± ＋

・防除対策

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

ハチハチ乳剤、ベストガード水溶剤などで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮に入れて農薬を選定してください。

〔イチゴ（施設）・うどんこ病〕

発病葉や発病果は伝染源となるので、見つけ次第除去しましょう。スコア顆粒水和剤、アフエットフロアブルなどで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ミカンキイロアザミウマ〕

スピノエース顆粒水和剤、マッチ乳剤などで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮に入れて農薬を選定してください。

・留意事項

野菜（露地）

タマネギのべと病は、気温が高く降雨が続くと増加します。発病を確認したら直ちに防除しましょう。

野菜（施設）

気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが増殖しやすくなります。タバココナジラミの防除を徹底し、トマト黄化葉巻病の発生を防ぎましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してコナジラミ類を死滅させましょう。

ナスでは、すすかび病の発生量が多いほ場があります。施設内が多湿になると発病を助長するので、積極的な換気に努めましょう。また、発病部は伝染源となるので早期除去に努めましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平 年 並	平年値を中心にして40%の度数に入る幅
	やや多い	平年並の外側20%の度数に入る幅
発生時期	やや少ない	同上
	多 少	上記三者の外側10%の度数に入る幅
発生時期	少 ない	同上
	平 年 並	平年値を中心にして前後2日以内
発生時期	やや早い	平年値より3～5日早い
	やや遅い	平年値より3～5日遅い
発生時期	早 しい	平年値より6日以上早い
	遅 しい	平年値より6日以上遅い

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台3月29日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：30% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%